

# 希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 11 月 2 日 発行  
第 26 号  
発行人 校長 鈴木史良

## 北米・欧州校長会に参加して

—— 晩秋のパリで交わされた熱い議論と交流 ——

日本政府主催のもと、10月26日(月)から3日間の日程で、北米・欧州地区日本人学校校長研究協議会が1974年創立のパリ日本人学校で開催されました。同校はパリ市の西、モンティニー市にあり、現在、小学部156名、中学部44名、計200名の児童生徒が学んでいます。

まず、目に入ってくるのは、郊外の落ち着いたたたずまいの中、ガラスが多用された驚くほどモダンな白亜の校舎と広い緑のグラウンド。1990年にパリ市内からこの地に移設された当時は、700名の児童生徒の受け入れを想定していたそうです。十分にゆとりのある校舎で、子どもたちはのびのびと過ごしており、挨拶もしっかりしていました。パリのテロ事件後、警備員も2名増強されたとのことで、正門横には警備員が常駐しています。

さて、今回の校長会には、北米からニューヨーク、ニュージャージー、シカゴの3校。ヨーロッパからロンドン、パリ、デュッセルドルフ、モスクワ等21校、計24校が参加し、日ごろ在外教育施設が抱える多岐にわたる問題や課題について協議しました。1日目は開会式に続いて外務省、文科省からの最新情報提供、特別支援総合研究所や海外子女教育振興財団からの情報提供がありました。2日目は午前中、パリ日本人学校の概要説明と授業参観がありました。午後から「魅力ある在外教育施設の在り方」をテーマとした分科会で盛り上がりました。3日目は、午前中に「児童生徒の安全を確保する危機管理の在り方」についての分科会が行われ、午後は学校別の情報交換、及び閉会式が行われました。校長会と同様に3日間の日程で配偶者会も開催され、校長を支える配偶者の在り方について活発な討議がなされました。中には鬱をかかえて悩むという事例も報告され、何かとストレスの多い海外生活の実態の一部が明らかにされ、配偶者の在り方が確認されました。

他校の実践についての話を伺い、或いは自校の実践を報告する中で、本校の教育課題もいろいろ浮かび上がってきました。本校の場合、二つに大きく括るとすれば、「児童生徒の確保」と「危機管理」ではないかと思えます。「児童生徒の確保」のために、日本人幼稚園を訪問し、



モダンで明るい校舎



緑の芝生のグラウンド

学校説明会を実施しているという事例がありました。せっきくの海外赴任だから現地校やインター校に入学させて語学力を高めさせたいと願うご家庭が多い中、幼少期だからこそ、思考言語として日本語をしっかりと学ぶことが大切だという意見が校長会の多数を占めました。日本語をしっかりと学ぶためには日本人学校の授業のクオリティーをもっと高めていくことが必要なことは言うまでもありません。



支援員までついた小2の教室

また、「危機管理」に関しましては、参加校のほとんどが監視カメラを備えていたり、警備員を配置したりしていました。小規模校でも、パニック・ブザーが各教室に備え付けられ、ブザーを押すと警備会社に直通になっているそうです。本校の現状を考えると、これまで何も起きていないからよしとする訳にはいきません。外務省の担当官からも、これまでは事件・テロに日本人も巻き込まれるという形だったが、これからは日本人自身が直接ターゲットになる、という強い注意喚起がありました。本校も「危機管理」をソフト、ハードの両面から見直していく必要があるでしょう。

最後にパリの印象ですが、さすがに芸術の都。セーヌ川沿いの街の雰囲気は「絵」になります。しかし、人と車の混雑、渋滞には閉口しました。チューリッヒ空港に着いてようやく肩の荷がおりたかのように楽な気持ちになりました。

## 授業力を高める先生方の研修

10月30日(金)、31日(土)に全日制と補習校の研究授業をおこないました。全日制は、山田遊教諭による6年生国語教材「この絵、私はこう見る」の授業でした。有名なピカソの『ゲルニカ』を見た子どもたちは、描かれた人物がなぜナイフをもっているのか？ 右の人物はなぜこんな行動をとっているのだろうか？ など、素朴な疑問からスタート。子どもたちは視野の広がり共有し合い、自らの考えを自分の意味づけと言葉で表現できました。



全日制・山田先生の研究授業(小6)

補習校は、寺田清美講師による中2国語教材『走れメロス』の授業でした。友情のすばらしさに、とかく道徳的な授業になりやすい場面でしたが、登場人物の心情を本文から丁寧に読み取らせることによって、生徒たちはリアルな人物像を浮かび上がらせました。「あなたが弁護士だったら、王をどのように弁護する？」という発問は、生徒たちが王の心情の変化を捉えるために有効な、おもしろい発問でした。



補習校・寺田先生の研究授業(中2)